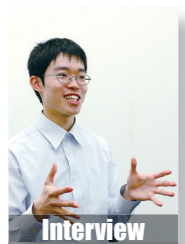




## 若者よ、もつと意見の発信を

一関高専学生会

「学生による自発的な活動を通して人間形成を助長する」を目的に学生らが構成している。左から立野高陽さん、阿部翼会長、村山福太前会長



一関工業高等専門学校5年 村山福太さん

こんな一関にしたい  
市政に思いをとどける

一関高専学生会(阿部翼会長)は「市内の道路舗装状況が悪い」ことを市議会に訴えました。市内32箇所を「一関市道路調査報告書」にまとめ、市議会に提出したのです。報告書では、見通しの悪い交差点へのカーブミラー設置のほか、一ノ関駅前キスアンドライド(※1)化工事と同駅東西自由道路の早期実現についても要望しました。

村山福太前会長は「きっかけは、学校周辺の道路舗装の状況が悪かったから。市議会からは『調査を行うとともに、市や県に要請する』と回答がありました。自分たちの意見をはつきり伝えられてよかったです。異なる観点から問題を検証し、話し合いを深めることが大切だと思います」と熱く語りました。

また、昨年11〜12月に行われた市内高校生と市議会議員

正しい投票には  
正しい情報が必要

有権者が得る情報の多くは、新聞やテレビといったメディアが中心です。これらは、統一された情報になりがちで、候補者の人柄など本質を見極める判断材料としては十分とはいえません。

●高校生との懇談会の提言(一部抜粋) / 提言1\_人口減少対策の最大の施策として若者が住みたくなるまちの実現を目指す / 提言2\_交通インフラ、防犯灯の整備など通学環境の整備 / 提言3\_近隣自治体との連携のもと、若者の就労環境の整備を図る / 提言4\_ILCのメリットとデメリットについて学習の機会を設ける / 提言5\_奨学金の増額や拡大を図り、経済面からの学習環境の整備を図る / 提言5\_選挙権の付与に伴う、政治を学ぶ機会の創設

の懇談会では生徒101人が若者の視点から市政について意見を述べました。意見は後日、提言として市議会から勝部修市長に提出されました。これらは、若者たちが自ら考え、自ら調査し、意見を発信した一例です。行動を起こすことで、若い世代の声は市政にとどくのです。

新たに選挙権を得る18、19歳は全国で約240万人。有権者全体のわずか2%であり、新たな18歳投票権だけで「若者の声がとどく政治」を実現することは困難です。

しかし、18、19歳といえ、デジタルネイティブ世代(※2)。ネットには、よい情報だけでなく、悪い情報も書き込まれています。多様な情報から正しい情報や必要な情報を取捨選択することに慣れ親しんだ世代が政治参加できる意味は大きく、前述の問題が是正される突破口になる可能性があります。

投票は住みよい社会を実現するための第一歩です。大事なことは、候補者が、当選のための政策ではなく、暮らしのための政策を掲げ、有権者が投票を棄権せず、一票を投じることです。若い世代の投票率が高ければ、「若者は国のことを真剣に考えている」と思う政治家が増えるはずで、一人一人の一票は、政治に影響を与える一票です。どうすれば政治を変えられるのか、主権者として考え、行動しましょう。

※1 キスアンドライド(kiss and ride) …自宅から公共交通機関の乗降所(駅やバス停など)まで自動車等で家族に送り迎えをしてもらう通勤・通学の形態 / ※2 デジタルネイティブ世代(digital native) …学生時代からインターネットやパソコンのある生活環境で育ってきた世代のこと。日本では1980年前後生まれ以降が該当するとされる



Thought to share  
3

対策

# 若者と未来

デジタルとアナログ、多様な情報をシェア(共有)し、世代を超えて議論を尽くせば、よりよい結果が導き出される

選挙と政治に関心を  
模擬投票で意識高める

選挙権年齢の引き下げに伴い、市内各高校は選挙学習に取り組んでいます。

実際に生徒たちが立候補して模擬選挙を行ったり、投票や開票を行ったりして、選挙と政治に関心を持たせることが目的です。

千厩高校(稲森藤夫校長、生徒552人)の「主権者教育学習会」は5月9日、同校体育館で行われ、3年生193人が、模擬投票に臨みました。同学習会は、同校と市選挙管理委員会が実施。生徒らは、選挙の歴史や投票方法などについて講義を受けた後、本番さながらの投票を行いました。

また、一関修紅高校(菊池慧校長、生徒378人)の「18歳投票にそなえた選挙学習」は6月20日、同校武道館で行われ、3年生109人が投票の大切さや高校生が注意すべき選挙の違反行為などを学んだ後、模擬投票を行いました。

生徒たちは、情報を見極め、判断する力を養いました。



千厩高校3年 伊藤桃子さん

### 地方を大切に政治を

今まで政治に興味はありませんでした。若者は進学で、都市部に出て行ってしまっているので、一関に大学を誘致してほしいです。地方は元気がないと思います。地方を盛り上げてくれる人に投票したいです。投票するときは、自ら考えて誰が暮らしをよくしてくれるかを判断したいです。



一関修紅高校3年 佐々木拓斗さん

### 補助金で少子化に歯止め

酒やタバコなどの嗜好品を増税してはどうでしょう。増えた税収を、子供を生んだ人への補助金に充てれば出生率は上がると思います。このまま少子化が進むと、ほかの国との競争に負けてしまいます。少子化が改善すれば、経済も回復して、年金問題も解決すると思います。



千厩高校3年 及川峻飛さん

### ネット選挙の普及に期待

身の回りの環境がよくなるような、身近な公約を掲げる候補者に投票したい。若い人が政治に関わるのは賛成です。大人と違い、じっくり考える時間があります。自分が信じて選ぶということは、投票者にも責任がある。議員の活動内容をしっかりチェックする必要があります。



一関修紅高校3年 熊谷菜央さん

### 保育士の給料を増やして

新聞やインターネットでニュースを見ている。気になっているのは、待機児童の問題。保育士が少ないのが原因だと思います。保育士の給料を増やして、働く環境を整えることが必要ではないでしょうか。待機児童問題に真剣に取り組んでいる人に投票したいです。

## とどけ、若者たちの思い



1\_真剣な表情で講義を受ける千厩高校の生徒ら / 2\_千厩高校の生徒による模擬投票。実物の投票箱や記載台を使って行われた / 3\_一関修紅高校で生徒に一票の重みを語る「一関市明るい選挙推進協議会」の小嶋哲郎会長 / 4\_市選挙管理委員会事務局の職員が、選挙の歴史や投票方法などについて講義した / 5\_一人一人の思いが、地域と政治を変えるきっかけになる